



さまざまにケア、 さまざまにケアの見方

参加 無料 申込 不要 オンライン (YouTube)

2021年9月24日(金) 19:00-20:30



オンライン (YouTube)
参加はこちら



講座概要

講演者の一人である村上は、2021年6月に『ケアとはなにか 看護・福祉で大事なこと』(中公新書)を上梓し、そのなかで、医療や福祉・地域でのピア活動(経験をともにする人がお互いに支え合う活動)にまたがるさまざまな分野の援助職のみなさんから学んだケアの要所について考察しました。本講義では、医療ケアだけでなく、子ども食堂に見られるような地域社会における住民間のケア、心理臨床における「ケア」、ケアについての社会全体の意識といった広い視点から、あらためてケアが何であって何ではないのかについて考えます。

CIDER (感染症総合教育研究拠点) とは

大阪大学は、新型コロナウイルス感染症の流行で浮き彫りとなった日本が抱える課題を踏まえ、新型コロナウイルス感染症への対策のみならず、将来の感染症の脅威から人々の「いのち」と「暮らし」を守ることを目指し、2021年4月に感染症総合教育研究拠点 (Center for Infectious Disease Education and Research (CiDER)) を設置しました。CiDERでは、研究型総合大学の利点を活かし、感染症克服のための「オール阪大」の研究を推進し、ここで得られた基盤研究、学術研究の成果をもとに、感染症の克服へ向けての貢献を目指します。

講師のご紹介



村上 靖彦氏
大阪大学大学院
人間科学研究科 教授

東京都生まれ。Ph.D.(パリ第7大学、基礎精神病理学・精神分析学博士)。著書に『在宅無限大—訪問看護師が見た生と死』(医学書院、2018年)、『子どもたちが作る町—大阪・西成の子育て支援』(世界思想社、2021年)、『交わらないリズム—出会いとすれ違いの現象学』(青土社、2021年)、『ケアとは何か 看護・福祉で大事なこと』(中公新書、2021年)など。



平井 啓氏
大阪大学大学院
人間科学研究科 准教授

山口県生まれ。博士(人間科学)、公認心理師。専門は健康・医療心理学、行動医学、医療行動経済学、サイコソコロジ。著書に『医療現場の行動経済学—すれ違う医者と患者』(東洋経済新報社、2018年、大竹文雄との共著)、『ワークシートで学ぶ問題解決療法—認知行動療法を実践的に活用したい人へ実践のコツを教えます』(ちとせプレス、2020年、本岡寛子との共著)など。



三浦 麻子氏
大阪大学大学院
人間科学研究科 教授

京都市生まれ。博士(人間科学)。専門は社会心理学。コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明することに関心をもつ。感染禍という「状況の力」が人間の心理・行動に与える影響について量的アプローチで検討している。

主催 | CIDER(大阪大学感染症総合教育研究拠点)、一般社団法人ナレッジキャピタル

問い合わせ

大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務室

06-6879-4903 kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp

https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html

CIDER WEBサイトはこちら→

